

<一般研究>

乳幼児期における母性的養育環境の相違と 発達に関する縦断的研究（5）

—小児の初期環境における Separation, Deprivation
の影響に関する研究 3—

研究第5部

網 野 武 博・萩 原 英 敏
金 子 保

I はじめに

乳幼児期における分離（Separation）と喪失（Deprivation）の経験が、その後の精神身体発育にさまざまな影響を及ぼすという指摘がなされて久しい。本研究は、これに関する文献的研究及び実証的研究の一環として行われているものであり、今回の報告は、主として Separation の影響に関して検討を加えるため、保育所入所児童の精神発達面についてパイロット・スタディを試みたものである。

II 研究方法

東京都内、神奈川県内及び和歌山県内の13か所の保育所に依頼し、調査時点で在園中の3歳以下の児童（心身に障害のある児童は含まれていない。）について、つぎの内容の調査を行なった。

1. 性、日・月齢
2. 入園時日・月齢
3. 在園期間
4. 入園前に両親以外に養育された経験
5. 在園中の情緒的、行動的問題
6. 乳幼児精神発達調査（保育及び保護者が回答）

その内容は、末尾資料1～2のとおりである。調査対象となった保育所は右のとおりである。これら、435名のうち、内容的に分析の条件を欠いているもの（日・月齢、在園期間等が不明のもの、精神発達調査で保育または保護者のいずれかが未記入のもの）を除き統計値を算出した。なお、DQ値は、精神発達調査の発達領域毎に標準月齢に基づき算出し、全体DQ値は、5領域の算術平均によった。

保育所名	対象児数	保育所名	対象児数
東京都内	名	神奈川県内	名
Ms 保育所	49	S 保育園	45
H 保育園	15	Pt 保育園	45
Md 保育園	24	Mt 保育園	26
神奈川県内		W 保育園	44
S 保育園	50	E 保育園	20
F 保育園	25	和歌山県内	
G 保育園	27	Mu 保育園	20
O 保育園	45	計	435

III 結果と考察

1. DQ 値の領域別プロフィールと性差

調査の対象となった保育所在園児の性別によるDQ値の結果は図1のとおりである。運動機能が最も高く、男児、女児ともに120台に達し、次いで探索操作、社会性、情緒、生活習慣の順となっており、言語・理解が最も低くなっている。これらの領域間の平均DQ値について比

図1 性別、領域別DQ値のプロフィール

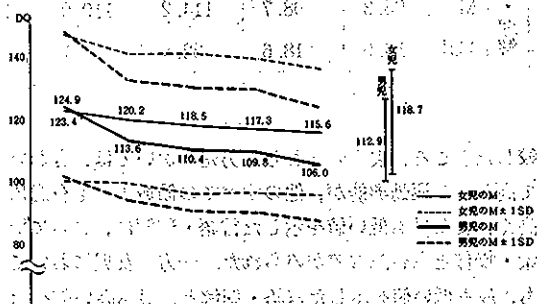


表1. 領域別DQ値及び性別DQ値の有意差

	(F 検 定)								(T 検 定)
	男 児				女 児				
領 域	探 索 操 作	社会性 ・ 情 緒	生 活 習 慣	言 語 ・ 理 解	探 索 操 作	社会性 ・ 情 緒	生 活 習 慣	言 語 ・ 理 解	性 差
運 動 機 能	***	***	***	***		NS	NS	***	NS
探 索 操 作		NS	NS	***		NS	NS	NS	***
社会性・情緒			NS	NS			NS	NS	***
生 活 習 慣				NS				NS	***
言 語 理 解									***
									*

*** …… 1%水準 * …… 5%水準

表2. 領域別, 年齢別DQ値とその有意差

		① ~ 1 歳	② 1歳6か月	③ ~ 2 歳	④ 2歳6か月	⑤ ~ 3 歳	⑥ 3 歳 ~	領域別, 年齢別DQ値の有意差(F検定)
運 動 機 能	N	50	75	64	85	99	33	
	M	99.6	122.0	127.0	137.1	126.8	119.8	
	SD	25.4	18.7	24.3	21.6	16.8	13.4	
探 索 操 作	N	49	75	64	86	99	33	①×②, ③, ④, ⑤, ⑥… *** ②×④… *** ③×④… *** ④×⑤, ⑥… *** ⑤×⑥… *
	M	103.8	115.2	120.2	124.7	114.6	111.9	
	SD	19.9	25.1	22.6	17.8	16.1	12.8	
社会性・情緒	N	50	73	64	83	97	33	①×④… * ②×⑥… *** ③×⑥… *** ④×⑤… *, ④×⑥… ***
	M	110.0	116.8	115.2	119.5	111.9	105.2	
	SD	26.3	19.1	19.4	24.1	21.3	16.1	
生 活 習 慣	N	50	73	63	83	97	31	①×④, ⑤, ⑥… *** ②×④, ⑤, ⑥… *** ③×④, ⑤, ⑥… ***
	M	101.5	106.5	106.7	118.5	121.1	121.0	
	SD	17.5	17.5	19.2	24.4	17.7	14.2	
言 語 ・ 理 解	N	50	73	64	86	99	33	①×③, ④, ⑤, ⑥… *** ②×③, ④, ⑤, ⑥… *** ④×⑥… *
	M	95.3	98.7	114.2	119.0	115.2	110.1	
	SD	16.9	18.6	22.8	22.1	13.9	7.0	

*** …… 1%水準, * 5%水準

較したところ, 表1のとおり, 男児においては, きわめて高かった運動機能が, 他のすべての領域よりも有意に高く, また最も低い値を示した言語・理解は, さらに探索・操作とも有意な差がみられた。一方, 女児においても, 最も低い値を示した言語・理解と, 最も高い値を示した運動機能との間に有意な差がみられたが, 領域間の差は男児ほどにはみられなかった。このように, 保育環境と発達との関連において, 男児,

女児の間に相違がみられたので, これをさらに分析したところ, 表1のとおり, 男児が唯一女児よりも高い結果を示した運動機能を除いて, すべての領域において女児の平均値が男児よりも有意に高い結果が示された。

0歳から3歳頃までの発達における性差は十分に考慮しなければならないが, 保育環境との関連でみると, 運動機能を除くすべての領域における女児の発達の優位性について, 興味ある結果が示されている。

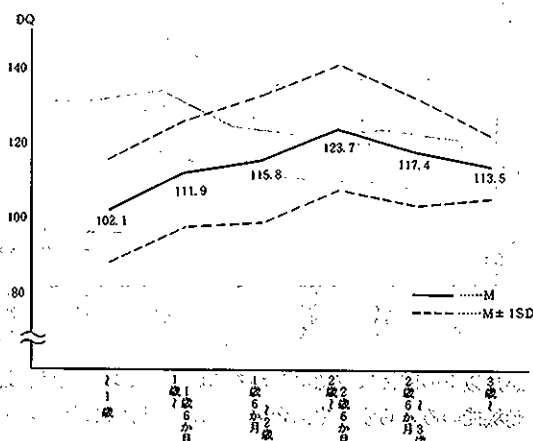
また、運動機能、探索、操作など他者との介在の要素がやゝ薄い発達領域が、社会性・情緒、生活習慣、言語、理解など対人関係、保育者と保育児のかかわりを基盤とする発達領域よりも高い値を示しているが、精神発達調査をさらに種々の乳幼児を対象として実施する中で、この傾向が保育所在園児に特有のものであるのかどうかについて検討を加える必要があると考えられた。

2. 年齢別 DQ 値

年齢別にみた全体 DQ 値は、図 2 のとおりであり、領域別、年齢別にみた DQ 値は、表 2 のとおりである。乳児保育の時期よりも、幼児保育の時期にある保育児の方が全体 DQ 値は高く、とくに 2 歳～2 歳 6 カ月児の DQ 値は他のすべての時期よりも有意に高く、1 歳未満児のそれは他のすべての時期よりも有意に低い結果がみられた。

この傾向は、運動機能において顕著にみられ、社会性・情緒、生活習慣、言語理解では必ずしもそれが顕著ではなかった。むしろ、保育所在園期間、保育所入園児月齢による比較をあわせ行うことにより、この傾向の意義がより明らかになると考えられた。

図 2 年齢別 DQ 値のプロファイル



3. 在園期間別 DQ 値

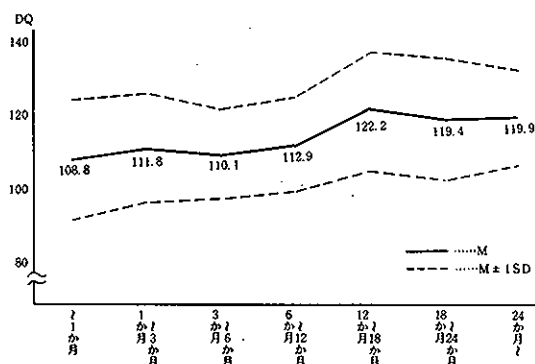
在園期間別にみた全体 DQ 値は、図 3 のとおりであり、領域別、在園期間別にみた DQ 値は、表 3 のとおりである。在園期間が 1 年を過ぎると、DQ 値はそれ以前よりも非常に高くなり、とくに在園期間 6 か月未満と 1 年 6

表 3. 領域別、在園期間別 DQ 値とその有意差

		① ～1か月	② ～3か月	③ ～6か月	④ ～12か月	⑤ ～18か月	⑥ ～24か月	⑦ 24か月～	領域別、在園期間別 DQ 値の有意差 (F 検定)
運動機能	N	40	134	11	19	88	18	55	①×②…*, ①×⑤, ⑥, ⑦…*** ②×⑤…***, ②×⑥, ⑦…* ③×⑤, ⑥, ⑦…* ④×⑤, ⑥, ⑦…*
	M	111.8	121.7	115.6	118.4	131.7	135.6	128.6	
	SD	25.8	22.9	18.2	18.5	22.2	23.3	18.5	
探索操作	N	40	133	11	19	89	18	55	①×⑤…*** ②×⑤…*** ③×⑤…* ⑤×⑥…*
	M	113.9	113.6	109.3	120.0	124.4	114.2	118.0	
	SD	20.1	21.9	19.0	19.0	18.6	19.5	13.3	
社会性情緒	N	39	131	11	18	87	18	55	①×②, ⑦…* ①×④, ⑤…*** ②×⑤…* ③×④…* ④×⑥…*
	M	105.5	113.0	103.9	121.2	119.7	108.6	116.1	
	SD	21.1	20.0	20.9	13.8	23.4	21.7	21.0	
生活習慣	N	39	130	11	19	87	17	52	①×⑤…*, ①×⑦…*** ②×⑤, ⑦…***, ②×⑥…* ④×⑤, ⑥…* ④×⑦…***
	M	107.6	109.2	113.5	106.3	117.9	122.1	123.5	
	SD	25.7	18.5	15.8	17.8	20.4	23.1	18.2	
言語・理解	N	39	133	11	18	89	18	55	①×⑤, ⑦…*** ①×⑥…* ②×⑤, ⑥, ⑦…***
	M	106.5	102.4	112.7	109.7	119.5	119.0	115.3	
	SD	21.6	17.5	18.1	22.4	20.1	21.0	12.0	

***… 1%水準, **… 5%水準

図3 在園期間別DQ値のプロフィール



か月以上の間には有意な差がみられた。この傾向は、運動機能のみならず、生活習慣、言語・理解の領域においても顕著にみられた。

また、探索操作、社会性・情緒の領域においても、在園期間が6か月未満よりも、それ以上の長期にわたる方が高い結果がみられた。

保育環境は、日中保護者からの separation を伴うものではあるが、長期的には発達にプラスの影響を及ぼしていると考えられる。これについては、先きにふれた年

齢別DQ値の特徴とともに、入園時月齢別の傾向をあわせて確かめる必要がある。

4. 入園時月齢別DQ値

そこで、さらに入園時月齢別にDQ値を比較したところ、全体DQ値は、図4のとおりであり、領域別DQ値は表4のとおりであった。入園時月齢は、年齢や在園期間ほどには、保育環境との関連でみた発達に及ぼす影響はみられず、全体DQ値では、月齢による有意な差は全くみられなかった。しかし、領域別では、運動機能にお

図4 入園時月齢別DQ値のプロフィール

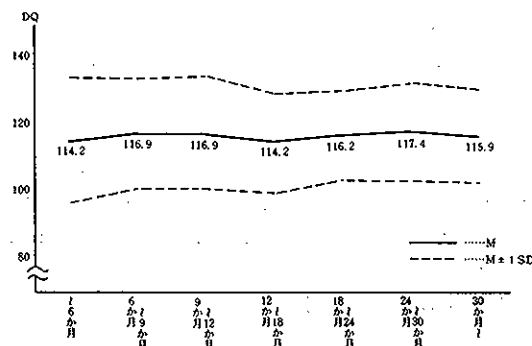


表4 領域別、入園時月齢別DQ値とその有意差

		① ~6か月	② ~9か月	③ ~12か月	④ ~18か月	⑤ ~24か月	⑥ ~30か月	⑦ 30か月~	領域別、入園時月齢別 DQ値の有意差 (F検定)
運動機能	N	31	59	83	72	52	34	27	①×②, ③, ④, ⑥...* ①×⑤...***
	M	111.3	127.2	125.4	123.0	128.3	128.6	122.4	
	SD	32.0	26.4	23.0	19.3	21.7	19.7	15.1	
探索操作	N	31	58	83	73	52	34	27	
	M	116.9	117.4	117.9	116.3	118.6	118.1	116.9	
	SD	22.3	20.8	21.4	21.4	17.3	15.2	16.6	
社会性・情緒	N	30	59	83	72	51	31	27	①×⑤...* ③×⑤...*** ③×⑥, ⑦...*
	M	117.1	115.3	120.4	114.6	108.4	111.3	109.7	
	SD	24.8	23.0	22.0	21.9	12.9	19.6	22.0	
生活習慣	N	30	58	82	70	51	33	25	④×⑥, ⑦...*
	M	113.4	114.8	112.2	110.2	116.0	118.8	119.9	
	SD	24.6	19.6	22.2	18.2	21.2	23.3	11.5	
言語・理解	N	30	59	83	73	52	34	27	
	M	111.5	110.6	110.7	108.1	111.6	115.7	112.4	
	SD	22.0	19.1	22.4	21.1	17.1	16.0	13.7	

**** 1%水準, *** 5%水準

いて、月齢6か月未満で入園した保育児のみが、それ以上の月齢で入園した保育児よりも有意に低い値を示しており、また社会性・情緒において、逆に1歳未満という低月齢時に入園した保育児は、1歳半以上時に入園した保育児よりも有意に高い値を示すなど、領域による相違がみられた。

以上の結果を全体的にまとめると、つぎのように言えるであろう。1歳未満児におけるseparationの経験は、短期的には発達に対してマイナスの影響を及ぼす可能性があり、それは運動機能など他者との介在の要素がやゝ薄い領域において、より顕著にみられる。一方対人関係を基盤とする領域のうち、社会性・情緒の発達は、むしろ1歳未満時に入園した場合の方が発達が良好であるという考慮に値する結果もみられた。

しかしながら、その後の長期的な影響をみると、1歳未満児も含め、在園期間が長くなる程全体的に発達に対してプラスの影響を及ぼしていることが示されており、とくに2歳台における保育所入所児童の発達が良好であることが、今回の調査の結果明らかになった。

5. 過去の養育経験別DQ値

とくにseparationの影響に視点をあてた今回の研究

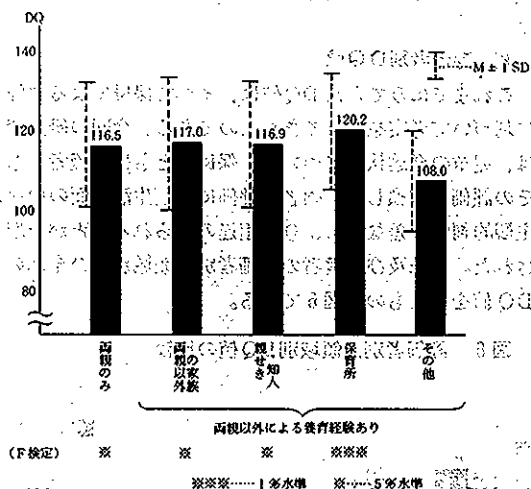
表5. 領域別、過去の養育経験別DQ値とその有意差

		① 両親のみ	② 両親以外の家族	③ 親せき・知人	④ 保育所	⑤ その他	領域別、過去の養育経験別 DQ値の有意差(F検定)
運動機能	N	200	31	34	35	20	①×⑤…*
	M	124.4	122.6	126.3	131.3	113.9	②×⑤…*
	SD	22.9	21.9	24.6	19.3	20.5	④×⑤…***
探索操作	N	200	33	34	34	20	①×⑥…***
	M	118.0	122.6	116.3	124.3	102.8	②×⑤…***
	SD	18.5	20.2	20.7	23.7	21.0	③×⑤…*
社会性・情緒	N	196	30	34	35	19	④×⑥…***
	M	114.4	116.6	116.3	116.3	117.0	
	SD	21.7	23.3	23.2	21.9	17.1	
生活習慣	N	191	30	34	35	20	①×⑥…*
	M	117.1	110.7	111.8	117.6	104.4	④×⑤…*
	SD	20.5	21.6	22.2	18.9	14.5	
言語・理解	N	199	30	34	35	20	
	M	111.8	111.4	113.4	112.7	108.0	
	SD	19.7	21.6	21.0	20.0	12.2	

***…1%水準、**…5%水準

では、対象となった保育児の過去の養育経験についても調査し、その内容別にDQ値を確かめた。その結果全体DQ値は、図5のとおりであり、領域別DQ値は、表5のとおりであった。両親のみによって養育された児童が多数を占めるが、DQ値でみると、最も高いグループは、

図5. 過去の養育経験別DQ値

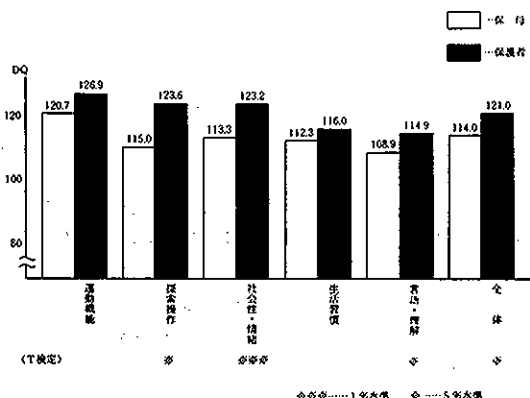


現在の保育所に入所する以前にも保育所に在園したことのある児童のグループであるという結果が示された。また、その他何らかの養育経験のある児童グループが最も低く、そのDQ値は、他のいずれのグループのそれよりも有意に低かった。この結果は、乳幼児期における保育経験の意味をあらためて問うものであり、さらに例数を多くみていく中で、検討を加える必要があると考えられた。

6. 評価者別DQ値

これまでにみてきたDQ値は、すべて保母による評価に基づいて考察を加えてきたものである。今回の研究では、児童の発達状況について、保母とともに保護者にもその評価を依頼した。両者の評価には、生活場面の相違、主観的判断の差などにより、相違のみられることが予想された。保母及び保護者の評価者別に領域別及び全体のDQ値をみたものが図6である。

図6 評価者別、領域別DQ値の比較



いずれの領域においても保護者の評価によるDQ値の方が高く、全体DQ値で7.0の差がみられた。領域別では、運動機能、生活習慣を除く3領域において、保母よりも保護者の評価によるDQ値が有意に高かった。中でも社会性・情緒は、9.9の差がみられ、対人関係における発達の評価は、実の親と保育者により判断の基準や観点が異なる背景の多いことがあらためて確認できたように思われる。このことは、両親の評価による一般家庭児の発達と、他の保育者、養育者の評価による保育所、幼稚園あるいは児童福祉施設等に在園する児童の発達とを単純に比較することが妥当ではないことを示している。

7. 情緒的行動的問題

最後に、保育所に在園中の児童にみられる問題について、期間別にみたものが、図7である。最も多くみられるものは、指しゃぶり、物しゃぶりであり、児童全体の

3分の1を超えている。さらに後追いがはげしい、感情が変りやすい、見知らぬ人や物へ不安を示す、人見知りが全くない、と続いている。入園直後は、後追い、不安などを示す児童が多いが、それらは次第に減少する。比較的継続してみられるものは、指しゃぶり・物しゃぶり、感情が変りやすい、不安、人見知りがなく、多動などである。これらの中には、発達上の一過性のもののほか、保育における特別の配慮、あるいは専門的な指導を必要とする児童も含まれていると思われる。

図7 期間別、情緒的行動的問題のみられる児童数とその割合

	期 間						全体の児童数に占める割合
	入園直後から		ある期間から		新 続		

IV 要約

保育所に在園する3歳以下の乳幼児(13保育園、435名)を対象として、separationの精神発達に及ぼす影響についてパイロット・スタディを行ったところ、3歳までの保育児に関してはつぎのような結果が得られた。

1. 運動機能を除くすべての領域において、女児の発達の優位性が認められた。また領域別では、他者との介在のやゝ薄い発達領域の方が、対人関係や、保育者と保育児とのかわりを基盤とする発達領域よりもDQ値が高かった。これら性別、領域別にみられる特徴をみると、保育環境の及ぼす影響に相違があると考えられた。

網野他：乳幼児期における母性的養育環境の相違と発達に関する縦断的研究(5)

2. 日中保護者からの separation を伴う保育環境は、短期的には発達にマイナスの影響を及ぼすと思われるものもみられるが、在園期間が長くなる程、全体的に発達にプラスの影響を及ぼしていることが示唆された。とくに2歳台における発達が良好であることが示された。

このことは、以前に保育所に在園していたことのある児童グループのDQ値が最も高かったこととあわせ、

保育経験の質的内容について、また、年長児のその後の発達について、さらに検討を加える必要性のあることを示している。

3. 乳幼児の発達の状況は、評価者によって相違がみられ、とくに対人関係における発達の評価については、実の親と保育者により判断の基準や観点が異なる背景の多いことが認められた。

児 童 表

(該当するところに○を、又、空欄には必要な事項を記入して下さい。)

児童 No.

(1) 性	・男 ・女		(6) 在園中の情緒的、行動的問題 該当すればいくつでも該当か所に○をつけて下さい	・無し																																																																																
(2) 入園時月令	(月 日)			<table border="1"> <tr> <th>内 容</th> <th>入園直後短期間</th> <th>入園直後から短期間</th> <th>ある期間から継続して</th> <th>断続的に</th> </tr> <tr> <td>・夜泣き</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・顔をうつ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・体をゆする</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・指しゃぶり</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・物しゃぶり</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・奇声をあげる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・自慰</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・落着きなく多動</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・感情表現乏しく無気力</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・怒る、泣く、はしゃぐなど感情がかわりやすい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・見知らぬ人や物に、ひどくおびえたり、不安をよめる</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・人見知りや全くない</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・抱えず他人の注意をひこうとする</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・後追いがはげしい</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・その他 ()</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	内 容	入園直後短期間	入園直後から短期間	ある期間から継続して	断続的に	・夜泣き					・顔をうつ					・体をゆする					・指しゃぶり					・物しゃぶり					・奇声をあげる					・自慰					・落着きなく多動					・感情表現乏しく無気力					・怒る、泣く、はしゃぐなど感情がかわりやすい					・見知らぬ人や物に、ひどくおびえたり、不安をよめる					・人見知りや全くない					・抱えず他人の注意をひこうとする					・後追いがはげしい					・その他 ()				
内 容	入園直後短期間				入園直後から短期間	ある期間から継続して	断続的に																																																																													
・夜泣き																																																																																				
・顔をうつ																																																																																				
・体をゆする																																																																																				
・指しゃぶり																																																																																				
・物しゃぶり																																																																																				
・奇声をあげる																																																																																				
・自慰																																																																																				
・落着きなく多動																																																																																				
・感情表現乏しく無気力																																																																																				
・怒る、泣く、はしゃぐなど感情がかわりやすい																																																																																				
・見知らぬ人や物に、ひどくおびえたり、不安をよめる																																																																																				
・人見知りや全くない																																																																																				
・抱えず他人の注意をひこうとする																																																																																				
・後追いがはげしい																																																																																				
・その他 ()																																																																																				
(3) 現在の月令	(月 日)																																																																																			
(4) 在園期間	・1カ月未満 ・1～3カ月未満 ・3～6カ月未満 ・6～9カ月未満 ・9～12カ月未満 ・12～18カ月未満 ・18～24カ月未満 ・24カ月以上																																																																																			
(5) 入園前に両親以外に養育された経験	・無し 有り ・両親以外の家族 ・隣せき、知人 ・他の保育所 ・その他 ()																																																																																			

(7) 乳幼児精神発達調査 別紙

退院時月令(月 日)

記入の
お願い

お子さん(園児)の現在の日常生活の状況について、つぎのとおりお答え下さい。

○領域は、運動機能、探索・操作、社会性・情緒、生活習慣、言語・理解の5つです。

○回答の方法は各項目ごとに

(○) できる

(×) できない

(△) はっきりしない

の記号を用いて下さい

○該当月令からお答えいただき、それより下の月令項目では連続3つ「(○)」できる」だったらその段階まで、該当月令より上の月令項目では連続3つ「(×)」できない」だったら、その段階まで記号をつけて下さい。

例

15カ月児

標準月令	原 点	運 動 機 能	評 定
10	12	つかまってひとりで立ち上がる	
10	13	這う	
11	14	つたい歩き	○
12	15	坐っている所に手をついて立ちあがる	○
15	16	2〜3歩ひとりで歩く	○
15	17	しゃがむ	×
15	18	階段を這って昇る	○
18	19	かなりよく走り、めったにこころばない	×
18	20	片手を支えられて階段を昇る	○
21	21	つまさきで歩く	△
21	22	高いところからとびおりる	×
21	23	手すり、片手に支えられて階段をあがりおりる	×
24	24	両足でビョンビョンとぶ	×
24	25	ものにぶらさがれる	

標準月令	原 点	運 動 機 能	評 定	標準月令	原 点	探 索 ・ 操 作	評 定
1	1	寝ていて、自由に首の向きをかえる		1	1	触れたものをつかむ	
2	2	立てて抱いても首がフラフラしない		2	2	見たものを目で追う	
3	3	腹位で少しの間、頭を持ちあげる		3	3	ガラガラを少しの間聞いている	
4	4	横位で胸を床からはなして頭と肩とをあげる		4	4	ガラガラを振ったりながめたりして遊ぶ	
5	5	支えて坐らせると20分位は坐っている		4	5	両手の指をからみ合わせたり	
6	6	しばらくの間、ひとりで坐っている		5	6	体のそばにある玩具に手を伸ばしてつかむ	
7	7	ひとりで坐っていて両手に玩具をもっている		5	7	あお向けで雑布を取り去る	
8	8	あお向きから、うつ向きに寝返りする		6	8	持っているものでテーブルなどをたたく	
8	9	少しの支えて立っていることができる		6	9	ガラガラを一方の手から他方の手に持ちかえる	
9	10	20分ぐらい、つかまり立ちをしている		7	10	腹位で雑布から自由になる	
9	11	つかまり立ちをして片手で玩具をもっている		7	11	両方にもっているものを打ち合す	
10	12	つかまって、ひとりで立ちあがる		8	12	床に落ちている小さなものを注意してひろう	
10	13	這う(各種のはいはいを含む)		9	13	ひとりで坐っていて雑布を取り去る	
11	14	つたい歩き		10	14	布で覆われた玩具を再び取り出す	
12	15	坐っている所に手をついて立ちあがる		11	15	ボールを投げると投げ返す	
15	16	2〜3歩ひとりで歩く		12	16	鉛筆でめちやくちがができる	
15	17	しゃがむ		12	17	小さな積木を親指と示指でうまくつかむ	
15	18	階段を這って昇る		15	18	太鼓を2本の棒でたたく	
18	19	かなりよく走り、めったにこころばない		18	19	積木を2〜3ヶ重ねる	
18	20	片手を支えられて階段を昇る		18	20	机いすの下にもぐったり箱の中に入ったりして遊ぶ	
21	21	つまさきで歩く		21	21	鉛筆などで曲線をかく	
21	22	高い所(テーブル、イス)からとびおりる		21	22	ボールを受け取ったり投げたりを繰り返す	
21	23	手すり、片手に支えられて階段をあがりおりる		21	23	人形や玩具の動物をおどったり抱いたりする	
24	24	両足でビョンビョンとぶ		24	24	積木を横に2〜3ヶ並べる	
24	25	ものにぶらさがれる		24	25	ままごとと道具をいっぱい並べて遊ぶ	
30	26	すべり台にのぼりすべる		30	26	一枚ずつ頁をめくる	
30	27	三輪車のかじをとって押して歩く		30	27	乗物ごっこままごとごっこをよくする	
30	28	ひとりで1段ごとに両足をそろえ階段をあがりおりる		30	28	ハサミを使って紙布を切る	
36	29	三輪車にのってこぐ		36	29	円をまねて書く	
36	30	足を交互に出して階段をあがる		36	30	顔らしいものを書いて、目口などをつける	
36	31	ヨーイドンの合図でかけ出す		36	31	積木を高くつんで倒れそうになるスリルをたのしむ	
42	32	階段の2〜3段目ならとびおりる		42	32	画用紙いっぱい絵をかくて色をぬる	
48	33	でんぐり返りをする		42	33	積木で長い線路をつくり30分以上遊ぶ	
54	34	スキップを正しくする		48	34	黒板に絵をかくて遊ぶ	
				54	35	ハサミで簡単な形を切りぬく	

網野他：乳幼児期における母性的養育環境の相違と発達に関する縦断的研究(5)

標準月令	原 点	社会性・情緒 (対人関係)	評 定	標準月令	原 点	生活習慣 (食事・排泄・睡眠)	評 定	標準月令	原 点	言語・理解	評 定
1	1	快いときにひとりで笑いをする		1	1	空腹時に指で刺激すると顔を向けて欲しがる		1	1	母または保育者に泣き声の意味がわかる	
2	2	あやすと顔をみて笑う		2	2	腹一杯になると乳首を舌で押出したり顔をそむける		2	2	喃語(短母音ア、ウ等)を出す	
2	3	あやすと泣きやむが、人がはなれると泣く		3	3	乳をのむとき哺乳ビンに手が触れている		3	3	Bu Bu, Ku Ku という	
3	4	そばで歩く人を目で追う		4	4	スプーンからのむことができる		4	4	チャーチャーという	
3	5	声をたてて笑う		5	5	哺乳ビンを見るときうれしそうにする		5	5	ひとりで声を出して遊んでいる	
4	6	イナイナイバアをするとよくこんで笑う		6	6	離乳準備食をじょうずにのみこめる		6	6	人に向けて音声を出す	
5	7	見なれぬ人が来るとじっと見つめて表情が変わる		7	7	スプーンを母または保育者の手から取り上げて自分の口に持っていきとうとする		7	7	アバ、アバ、アウアウ等多音節母音を出す	
6	8	手をさし出されると自分から体をのり出す		8	8	人が食べているのを見て欲しがる		7	8	ダ、バ等単音節をいう(ダダ、ババ等)	
6	9	担当保育者と他との区別がつく		8	9	離乳中期食(かゆ)をじょうずに食べる		8	9	Ma や Mu を声に出す	
7	10	要求があるとき声を出しておとなの注意をひく		9	10	茶わんなどを両手で持って口に運ぶ		9	10	イヤイヤ、ニギニギ、バイバイ等の動作をする	
8	11	よく抱いてくれる人を見ると自分から体をのり出す		10	11	マンマといって食事の催促をする		10	11	おとなのことをばを理解して行動(バイバイしよう)する	
9	12	母または保育者の注意をひこうとする		11	12	哺乳ビンを自分で持って自由にのむ		11	12	絵本の頁をめくり熱心に見る	
10	13	イケマセンというとはっきり手をひっこめて顔をみる		12	13	自分でスプーンを持ちすくって食べようとする		11	13	食べ物のことをマンマまたウマウマ等という	
11	14	ものなどを相手にわたす		15	14	水などひとりで飲むと怒る		12	14	要求を3つ理解する(ネンネ、クッチ、いらっしやい等)	
12	15	鏡に笑いかけおじぎをししたりして遊ぶ		15	15	人に食べさせてよろこぶ		12	15	単語が2つ出る	
15	16	おとなの顔をうかがいがらないで顔をみる		18	16	食物以外は口に入れなくなる		15	16	絵本を見て知っているものの名をいったり指したりする	
15	17	子どもの中にまじってきげんよく遊ぶ		18	17	ヨーグルトなどスプーンを使ってひとりで食べる		15	17	簡単ないっつけを理解する(〇〇持って来てちょうだい)	
15	18	玩具を取り合う		18	18	自分の口もとをひとりでふく		15	18	目、口、耳など尋ねると指す	
18	19	いけないというときふざけてかえってやる		18	19	自分の排泄物に興味をもって見ている		18	19	本を読んでもとせがむ	
18	20	困難なことに会おうと助けを求める		18	20	おしっこしたあとでチーチーといっけ知らせる		18	20	自分の名を呼ばれるとハイと返事する	
21	21	おとなに鉛筆を握らせてワンワンなどをかけといっせがむ		21	21	おいしいものを食べるとオイシイという		21	21	お話をやると静かに聞くのが好きになった	
21	22	母または保育者とままごとのまねをする		21	22	こぼすとふこうとする		21	22	おとなのいった単語をオーム返す	
21	23	他の子どもにしとをする		21	23	靴をぬぐ		24	23	本をひとりでかなり長い間見て楽しんでいる	
21	24	友だちと手がつながる		24	24	大便をまちがいなく教える		24	24	ナアニときく	
24	25	子ども同士で追っかけっこをする		24	25	靴をはく		24	25	簡単な文を書く(連絡)	
24	26	友達の名がわかる		30	26	食事がすむとゴチソウサマという		24	26	置箱に節をつけて部分的にうたえる	
24	27	ほしいものがあるてもいいきかせればがまんして待つ		30	27	おしっこの前に教える(昼間は汚さない)		30	27	名前を尋ねると姓と名をいう	
30	28	ふざけて母または保育者を出さないよう戸を押えたりする		30	28	のみこまないでブクブクできる		30	28	自分の名をいれて話をする	
30	29	年下の子どもの世話をやきたがる		36	29	殆んどこぼさずにひとりで食べられる		36	29	ボク、ワタシ等という	
36	30	電話ごっこで交互に会話する		36	30	夜間オムツ不要となる		36	30	3語文を操る	
36	31	ままごと遊びを30分以上もできる		42	31	自分から小便に行き、おとなの手をかけない		36	31	テレビで子どもが主人公の番組を熱心に見る	
42	32	友だちとものを順番に使う(ぶらんこ等)		48	32	鼻をかむ		42	32	どうして、どうしたの等という	
48	33	かくれんぼでさがす役とかくられる役を理解する						44	33	自分の名前を読む	
54	34	鬼ごっこができる									

全 体
